

# 佐伯教育事務所 令和6年度第1回学校訪問における「学校マネジメント」に係る取組事例①

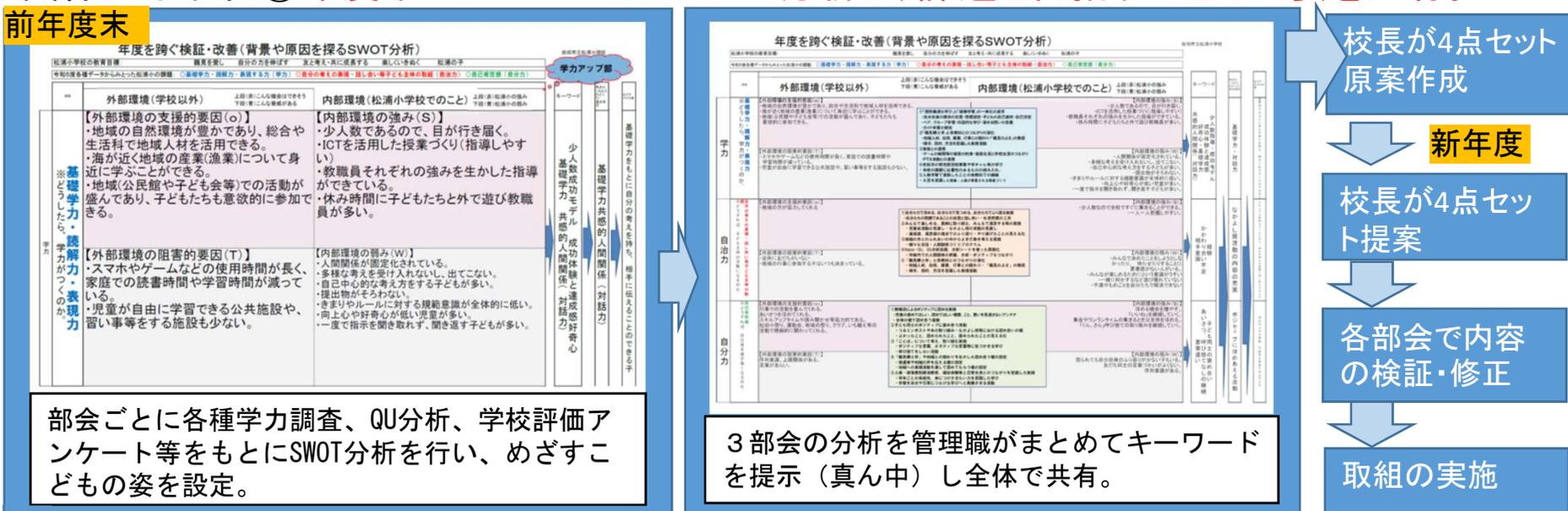
【観点Ⅰ】「学校の教育目標、重点目標等の設定・共有」【観点Ⅱ】「短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施」

## 取組実践校: 佐伯市立松浦小学校(児童数 47名 7学級)

### 「全職員が主体的に関わる短期及び年度を跨ぐ「4点セット」の検証・改善サイクルの工夫」

- ① 教員が主体的に年度を跨ぐ検証・改善を行うために部会ごとにSWOT分析を行う。
- ② 短期での検証・改善の質を向上させるために検証の方法を明確にする。

### 具体的な取組① 年度末にチームごとにSWOT分析し、課題と目指すことものの姿を共有。



**ポイント:** 課題の分析から4点セットの作成まで全職員が主体的に関わることができる。

### 具体的な取組② 取組指標に「みかじめの方法」を位置づけ2カ月に1回検証・改善。

#### 重点的取組

筋道を立てて説明・表現するためのスキルを積み重ねる取り組みの確実な実施(算数科)

#### 取組指標

算数タイムにおいては、学習したこと(算数用語などのアイテム)を用いて解き方を説明する問題、国語タイムにおいては、ニュースペーパー等を使って必要な情報を取り出す問題を毎週1回全学年で行う。  
《みかじめの方法》単元テストや宿題プリント、スキルタイム等とりためておいて、身につけているか確認する。

**ポイント:** 具体的な検証方法の設定が検証改善の精度を高める。



# 年度を跨ぐ検証・改善(背景や原因を探るSWOT分析)

佐伯市立松浦小学校

松浦小学校の教育目標: 鶴見を愛し 自分の力を伸ばす 友と考え共に成長する 楽しくいきぬく 松浦の子

令和5年度各種データからみとった松浦小の課題: ○基礎学力・読解力・表現する力(学力) ○自分の考えの表現・話し合い等子ども主体の取組(自治力) ○自己肯定感(自分力)

課題	外部環境(学校以外)		内部環境(松浦小学校でのこと)		キーワード	集約化(力の入り点)の項目	めざす子どもの姿
	上段(赤)こんな機会はできそう 下段(青)こんな脅威がある			上段(赤)松浦小の強み 下段(青)松浦小の弱み			
<b>学力</b> ※どうしたら、学力が表現力のか。	<b>【外部環境の支援的要因(O)】</b> ・地域の自然環境が豊かであり、総合や生活科で地域人材を活用できる。 ・海が近く地域の産業(漁業)について身近に学ぶことができる。 ・地域(公民館や子ども会等)での活動が盛んであり、子どもたちも意欲的に参加できる。	<b>【外部環境の阻害的要因(T)】</b> ・スマホやゲームなどの使用時間が長く、家庭での読書時間や学習時間が減っている。 ・児童が自由に学習できる公共施設や、習い事等をする施設も少ない。	<b>①「個別最適な学び」と「協働学習」の一体化の追求</b> ・自分自身の現状の自覚・目標設定・子どもの自己選択・自己決定 ・ペア、グループ学習・対話的な学び・深める問いの意義 ・ガイド学習の研究 <b>②「鶴見郷土学」と各教科とのつながりの深化</b> ・地域人材、自然、産業、行事との関わり・「鶴見のよさ」の発信 ・相手、目的、方法を意識した表現活動 <b>③家庭との連携</b> ・ゲームの時間等の家庭の約束・家庭生活と学校生活のつながり ・PTA活動との連携 <b>④佐伯市の研究指定校事業や学チャレ等の学び</b> ・本校の課題に必要性のあるものの組み入れ。	<b>【内部環境の強み(S)】</b> ・少人数であるので、目が行き届く。 ・ICTを活用した授業づくり(指導しやすい) ・教職員それぞれの強みを生かした指導ができています。 ・休み時間に子どもたちと外で遊び教職員が多い。	共感的 好奇心 人間関係 基礎学力 対話力 (対話力)	少人数指導・成功モデル 達成感	基礎 相手を もとに 自分の 力で できる 子 ども
<b>自治力</b> ※どうすれば、子ども主体の活動になるのか。	<b>【外部環境の支援的要因(O)】</b> ・地域の方が協力してくれる	<b>【外部環境の阻害的要因(T)】</b> ・近所に友だちが少ない ・地域の行事に参加する子はいつも決まっている。	<b>①自分たちで決める、自分たちで見つめる、自分たちで振り返る実践</b> ・自分たちの問題であることの自覚と話し合い・生活目標の工夫 <b>②みんなで楽しめる、真剣に取り組む、みんなで満足する等の実践</b> ・児童会活動の見直し・なかよし班の活動の見直し ・達成感、満足感の視点での振り返り・やり遂げたことの見える化 <b>③地域の方とのふれあいの中からよき行為を考える実践</b> ・様々な交流・人間関係づくりプログラム <b>④Hyper-QU、QU分析会議、分析シートを使った具現化</b> ・学級内での人間関係の把握、分析・ポジティブなつながり	<b>【内部環境の強み(S)】</b> ・人数なので全校ですぐに集まることできる。 ・一人一人把握しやすい。	経験 意識 不足	なかよし班活動の内容の充実	自分 だれ と も 気 持 ち 出 し 合 わ り 子 ども
<b>自分力</b> ※どうすれば、自己肯定感が高くなるのか。	<b>【外部環境の支援的要因(O)】</b> ・行事での活動を喜んでくれる。 ・あいさつをほめてくれる。 ・スキルアップタイムや読み聞かせ等協力的である。 ・松幼小祭り、運動会、地域の祭り、クラブ、いも権え等の活動で積極的に関わってくれる。	<b>【外部環境の阻害的要因(T)】</b> ・序列意識、上限関係がある。 ・言葉があららい。	<b>①教職員によるポジティブに認める実践</b> ・児童の褒めてほしい、認めてほしい場面、こと、思いを見逃さないアンテナ ・全体の場で認め合う姿勢 <b>②子ども同士のポジティブに褒め合う活動</b> ・つるミノポストや木の取り組み・なかよし班等における認め合いの場 ・よかったこと、認められたこと、褒められたことの見える化 <b>③「ことば」について考え、取り組む実践</b> ・ポジティブな言葉、ネガティブな言葉等に気づかせる学び ・呼び捨てをしない活動 <b>④「鶴見郷土学」や地域との関わりを生かした認め合う場の設定</b> ・保護者や地域の声を伝える場の設定 ・地域への表現活動を通して認めてもらう場の設定 <b>⑤人権・部落差別解消教育、福祉体験等と日常生活とのつながりを意識した実践</b>	<b>【内部環境の強み(S)】</b> ・ほめる機会を増やす。 ・「いいね」を継続していく。 ・集会やランタイムの集まるときは全体をほめる。 ・「くん、さん」呼び捨ての取り組みを継続していく。	子ども 同士 褒め 合 い 続 け る	ポジティブにほめあえる活動	自分 の よ さ や 成 長 、 可 能 性 を 自 覚 可 い 子 ども